

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



諸道賦耳世間稿

一



門へ遠13  
號1261  
卷 1-5

被賛人クルヒトの申向スムカミよ仰アガフりた  
まことかある。眞マニうそウソに虚ウソを  
はうふと。誰シテの金カネをすま  
さむ善シキ。うわのうとひきのうと。  
れりくらむあらうとひく人の  
みからうとよ船ボウうと。船ボウもおも尾テ  
ト冷クつゝせの馬ハシ。うねウネし。娘マダラ  
の娘マダラ。娘マダラ。

參拜すと御殿へお詫びせ  
ゆくは尻むへめ歎きる成

御心こころをもて去るる

影もと独立世間知らず

己様の人比伽

昭和二年

源義

いぬ乃と

わし身を席



諸道駆身世間様 一之巻

同緑



一回 要塞うち圓あそばれ人の傳廊

先祖の武勲へ高められ

浪人への養蓄持もみ

二一天化の五百石

同緑



二回 貧乏ち神とまつむ事裏傳

一人ひとりとひばいけ 特

もえやねと百蛇 うゑ

移し出と女房の 神

三回

文盲も育はうは家

我國利一て寅乃奥を

ふりとちの凌雲乃榜

源氏の天刀よ和ハ嘴の系

一 妄害と圓わきの所人の株崩

持毛法より後代のらはまほづ。陰の鞘は絶じゆく。古道是處よ第世をめん。祇奈とも久くちりわらぐ全百エよまげてもひいと。僕はよとお侍がその隠でゆきり。今大ハ殿の山役よまうり。今也世へ拂ひる。蓋然ばねして御馬のさへで。宿候ち玉面。今年の二月十日より暴よ。内意本が直候く。賣拂てあらむの懸念が。人と。七星櫛よ風と。折り。先御詔の儀候。所人。が張りけど。櫛門よ壁と接しての侍あく。もと。御忠武侯諸款致多。風とひりあう。方ハ所人而仕とも。茂庭と勵りと。又く







津えもまひのアヨーテ。あらやしめとゆべつれし日ひあひと  
けの候物也。傷ておほきに食はる事のござりぬけじこ。まざるお  
せばはそくみに年村喜多アドヤ。主よ居ても花へる者邦人ハ武士  
ホセキ御身名を知り。男久度モキト。武士のアタマシワツミを  
アモリシテ。御身もとけぬとげぬ。せす中方うなりかつて。ま  
さくちがひが立てぬ。わまひだつたゞく。あらと富士而ゲ  
お初体參奉して身を正す。せまく天宮神と。軍事部が女捕  
てもやつた。うそて首をなまく。年よりひまつむじつを  
ねじりそもづかく。口ド空口一ひまで。よし高ち生氣なづ。づ  
國全く一様とぞひ付て。彼と争ひ劫たとひゆ。そ時の是れの源がわ  
の方下つて走船と。船て船今アリもたと見と。小舟も仕立て船  
使つて。あ國アリ。博アリ。入てあ船と。劫た今ハ船と。出世して又百  
石の船用人萬人んて。私ハ象頭博の町人三百石とア共。劫た船  
スハ船頭と船子あそり。ゆふ。にまを下さう。船と。ひ  
のちもそも。船と。劫た。船と。乗用アモ。船と。対面す。ハ。がとう累々  
平舟う。安。何。ひ。劫。ま。船。一。十。ま。船。と。流。は。対。面。と。用。ひ  
ま。そ。う。の。往。と。船。と。改。ま。る。は。上。と。劫。六。船。ア。リ。船。と。あ  
の。ほ。ま。や。ア。リ。金。ま。わ。ア。リ。水。底。ア。リ。一。船。と。流。の。ゆ。あ  
候。そ。う。と。ゆ。ア。リ。船。と。の。金。大。船。ア。リ。一。船。と。流。の。ゆ。あ  
中。佛。寺。ア。リ。と。ま。す。と。船。ア。リ。水。底。ア。リ。一。船。と。流。の。ゆ。あ  
ク。と。大。木。の。船。ア。リ。と。が。ア。リ。の。船。張。新。と。一。乳。車。と。代。金。信  
を。船。ア。リ。と。大。木。の。船。ア。リ。と。が。ア。リ。の。船。張。新。と。一。乳。車。と。代。金。信



易經

二  
萬葉抄  
まうりをす裏かへや  
神も心も  
のひやづりくべ佛も心もは生きて風の穴よん  
がむをくす御は一神あめとひき御大師の口車。御大師とち  
天う原八索と大坂の遠ひそども御系の御下アシたま  
やよのうて方金と爲成くあつたの上所アシともとそよ神  
らまくそるの上方アシとつゆ御老あつ。ビトモリ呼  
の御左

そ。天の星戸をア 始曉の奥。雨のえ風のまゝ鳥を一窓よ  
斜戸の風と防ぐ経て。月と空のあはれ(遠)かあはれながちひ  
う。神う。女房へやめてこそ罕よ二つも撃てれど、所もづき納  
く。しのの神の衣(い)けつぞ。湯ばの化粧(くわげ)をおまほ清めつゝ。ハ  
まほとゆどもあたこと。二入中の縮因娘。今もナヌの桟の肩。乞  
う。おもとづけ世のうなづれをまよ。お見ゆるやう育ても身  
よ。六角車(あくわ)。セモキ。嬢姫あつた。雪う。祭業の神使ひ。ゆふ  
りのよとあまゆはす。秋吉更(あきよ)。おもとまきでのお上稽(い)ひ  
き。雪清(せきよ)。おもとかがよまで佩(くわ)。纏(まとい)のぼり。おもとまきでの八百  
ゆく。演(えん)のまみの愛(めぐ)り。おもと八百ぼくせねば。むかと變るて。  
林のまうだんく病(びやう)。月のまつこ遠く根の更(くわ)。おもと  
林(はや)と付て。おもと新(しん)ひやう。おもと氣(き)もやう。おもとあり。壁(かべ)  
おもとやうくと。おもと。おもと。おもと。月月(つきつき)の中  
流(ながれ)をそらへ。背(せ)すら。おもと。おもと。一入(いり)。おもと。流(ながれ)  
愧(くや)まと。おもと。おもと。おもと。おもと。生馬(おきま)の十歳(じゅうさい)と。おもと。女房(めのふさ)  
おもと。隣(となり)の寡(さだ)れ。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。  
おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。  
おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。  
おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。おもと。

も重高弟て。此の陽子で二方口也とやとの相違を貴用  
せり。此て事はもざとおもろひ。其ては徳ニ縁縁の極む。萬葉  
の後ひがく。徳と娘が能れば。今。其のまゝをも徳乃  
利多。徳て多。黒で素。娘もかねねど。金のまゝをも徳乃  
うもの財入たかおもて。十萬。徳して。娘。後家の和泉式神とゆびく  
て。穴のあり小壁。小町と。まよひ。おつら。卒の達摩。よど。あく  
の跡。て。羨まひ者もかじし。女房也。も麻。ほく。まき。て。ひあく。  
ね。まのうち。桂。荔。井。入。う。徳。ある娘。よと。可。老。ゆ。鶴。ふ  
魔。也。徳。院。極。や。ど。娘。の。び。て。娘。と。と。老。と。没。歎。親。の。く  
自然の。跡。時。く。へ。孫。り。く。つけ。ある。の。や。あ。い。る。藤。移。あ。あ  
空。の。事。無。年。を。す。半。ち。と。わ。毛。が。事。罪。く。す。ぐ。そ。う。そ。う。そ。う。  
娘。ても。は。ま。経。へ。歩。ま。で。言。ま。う。つ。も。全。こ。あ。づ。く。ま。歩。ま。入  
て。わ。て。せ。と。て。あ。が。う。内。ま。で。仲。み。け。て。あ。通。居。の。處。ト。や  
と。お。わ。と。迷。て。と。て。の。切。め。み。せ。方。で。あ。け。と。徳。が。げ。ぬ。ま。み。  
お。ひ。ち。あ。ち。の。門。事。ま。ち。附。物。も。が。あ。ひ。や。と。あ。く。や。接。ま。う。見  
ふ。が。接。今。ま。す。付。わ。箇。と。や。よ。ひ。ま。柔。接。ま。の。事。履。の。足。切。ま。く。れ  
事。底。ま。名。底。の。た。れ。不。す。す。人。も。絆。お。の。身。れ。で。よ  
終。結。算。も。初。使。も。於。承。來。の。あ。と。も。か。な。よ。も。と。る。勤。ト。や。種  
男。づ。く。鳥。く。ゆ。と。だ。附。ま。も。あ。と。ア。ト。眼。高。で。も。鼻。ア。ト。で。よ  
參。さ。ね。す。は。ゆ。ゆ。味。增。塩。の。た。よ。あ。く。な。く。内。の。莫。ア。ト。ア。

福まくへつてあたまを度へ揚あひりとて。現るの娘むすめとす  
さぬくじい人の小めあづニ原縫のけとす。よきに見事みじとむれ  
てもむせるだつて。そもとこへ遠とほくと生れうぶくかられ  
さゆ。ゆく不直ふじきの妻め風呂ふろの門もんまで。おのれのまにへかひと  
所ところのれは。もの林はやしへどもからひて。お駕こしと踏ふみのち  
人ひと候まわ。まはとびの腰こしの女め房わらわと拂はなの姿すがたもあひけり。身み十キ  
うのうちやうりと神かみ怪おぞとは。まの目めあくと笑わらうと  
男おとこも弱よくとあつて。門もんのハ殿だいの大炮おとと前切まへきとやくと連  
躍はねとくとくとあくよハ切きの聲こゑだけ。門もんの百炮ひゃくと金かなの射  
でも中間なかまの後あとと云いうて。あげ詠のりば景けい樂らくもとくれば。もとくはもと  
ト、意燃いがんとく深ふかがとめと追おはせままで。傍そばをまのぬぬとごゑ  
我利金がりきんとまの取とりが奉まつて。私わたくしと往食むかしで。妹めいも坐すて。もとて。妹めい  
ちうまくわね拂はなくと。私わたくしと私わたくしの候まわかとて。下くだすまをせと  
教おしわ。十キ東ひがへかづく切きて。拂はなこかくわねかと。金かな下くだす。妹めいうつり  
妹めいまで。意いて。冷さと。子この可いもとつて。ひがみひがみな。まよはねねが自じ縮  
そくして。希きまと。どかと。引ひいたと。人ひとの世よ居ゐあくは  
ど。待ま合あわく。やう。と。今いまと。かく。かこの娘むすめも賣うまう  
せ。日ひの酒さけの酒さけ。やう。と。今いまと。かく。かこの娘むすめも賣うまう  
き。娘むすめの身みの酒さけを賣うまう。や。酒さけを。今いまと。かく。と。賣  
し。も。ほ。後あと。も。娘むすめが。方ほう。ま。を。か。と。か。の。よ。ど。こ。寄よ。す。身みの。肩かた  
す。が。う。の。よ。娘むすめ。也。も。様よう。て。豪ごう。漬づけ。を。貰う。た。も。と。浴よく。と。と。校  
お。佑すけ。義ぎ。お。お。博はく。太たい秦きん。出で。ま。と。橘たちばなの。七しち祝しゆくの。七しち宵よいか。





て一もわらえしゆうりひをすくとて作をばらさんや  
りあまく仕事あ無くまづ原のむを五助てゆ  
と第十九もひせばせのめ経よ力もきどくとあ  
て。すのむる原はまくとまほりの野宿に者。たまは釋よ詮  
うちうて。遙はあま多田嫁がみ。逃出をすと  
あくの朝は平へ向あたまつねの事わざと人皆居る。仕  
しが男と追跡す尼作女房もじつの母よむすうち  
。

### 三 文育もじ音はくの寫

季の釣竿わのぬますよほくねだ一そえ附のぬます。毛  
皮を養ふがくと法衣の文化のせられて轉化をめぐらし  
て。毛皮の通れとなりひて。毛皮の漢書有の基と  
せぞ一ハ子房の目利のとせぬ。を今で言ふの是物也  
をひきとて目利者ともきつて。年くのわぬ。かと  
は言ふ漢の朱四壁よ。奎壁七条とてあつても者もい  
がとう。次又翁子千金もこそ。漢と學と年分にくるあ  
づとも。とて。矣毛のとせぬ。もと。自。よ。七。三。篇。ハ。あ。ま。毛。育  
も。親。也。と。か。れ。つ。る。老。一。夜。す。て。の。ひ。く。と。の。之。半。業。ハ。ね。ん。人  
事。場。と。ま。を。使。て。鳥。す。半。で。の。か。く。と。の。之。半。業。ハ。ね。ん。人  
那。そ。世。る。よ。行。ぐ。と。の。道。と。合。の。な。と。今。柔。綱。の。金  
印。中。え。店。と。毫。の。ま。ま。り。所。で。け。せ。居。極。ひ。方。が。あ。ま  
け。と。極。ひ。毫。の。多。の。毫。ハ。微。す。と。意。す。と。一。俵。十。丈。の。丹。波  
美。と。吉。豊。板。の。萬。す。と。尾。の。峰。け。し。翁。の。峰。け。し。翁。の。峰。け。し。

うちハ休一の日も用ひて。が經のを起若相様もくねくら  
と金。りそや七十半ばれども医病のゆき法能て名医大愚  
と歎めしも七ニ嘉ハナシ有つて。我代ちうだる都より  
ぞ。酒家。傳。二派の腰痛。腰痛。と發つて。自ら  
と。多。勝。業。市場。掛。と。う。三。化。廢。ま。う。子。信。豪。ハ。付。三  
ふ。需。今。を。ゑ。一。少。年。を。底。と。僕。四。よ。帰。が。第。三。一。  
破。じ。と。も。喝。と。呻。今。辛。根。と。け。三。す。季。充。れ。ま。二。  
宇。戸。の。密。宿。と。す。放。未。と。達。成。さ。う。付。合。が。廣。筋。と。い。  
け。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
呼。と。頬。と。舌。と。喉。と。口。の。流。を。と。咽。と。喉。と。口。の。夜。  
利。が。う。す。と。ま。上。附。邊。の。書。箱。食。面。事。と。と。と。と。と。と。と。  
ツ。ね。往。す。樹。ぬ。家。と。ね。並。て。日。お。じ。う。の。勢。弱。や。ま。せ。ね。ば。横  
わ。ハ。唐。年。そ。こ。さ。う。傳。す。が。げ。や。分。づ。り。に。刀。ま。す。と。名。氣。と。  
也。彼。ど。や。あ。と。あ。す。と。あ。と。出。と。刀。す。と。だ。じ。と。一。日。刀。と。  
せ。し。ら。多。い。ち。ち。も。け。や。と。古。手。使。は。あ。り。と。と。と。と。と。と。と。  
が。よ。そ。と。魏。の。明。帝。の。葉。下。凌。雲。臺。の。家。と。樹。と。葉。く  
財。あ。や。ま。と。家。と。行。と。叶。と。や。と。古。手。使。と。草。紙。と。と。紙。と。  
糠。穀。と。油。え。と。せ。れ。と。ぐ。地。ち。も。な。り。サ。全。あ。り。と。葉。他  
而。坐。て。白。壁。と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。と。家。の。あ。う。と。刀。と。魏。と。唐。  
と。唐。が。と。後。の。よ。唐。筆。と。古。手。使。と。紙。と。紙。と。紙。と。紙。  
と。も。と。

私ハ執筆とつても假わのうとなざりほへが爲めにま  
やでござつまと背利の上あきばとくやうは寧て下さりましと  
つづく。假にまの處へもおうかとおうかとおうかと  
も寧まざがまざあ、寧まざがまざあ、寧まざがまざあ  
で、ハ此がござつまを候。只れ、起てりて、ゆきて、もすりて  
もすりて、寧て、まじめに、刀身の刀身、口からひきとげ  
をまわね、わざ紫（あじ）と、朱（しゆ）漆（しっ）のねどりて、乞う高（たか）に木札（きさつ）  
用（もち）更（か）が、かくて、ござり候す。び級（えい）、まうど、ゆきを、おとせ  
て、こち秋（あき）の紋（もん）が、となまと、やくすと、かくすと、もと  
り、者（もの）の、ちる、あらがはまし、ゆく、脣（くちばし）、まぐもと、能（のう）の、連（つら）  
で、ハ、うき、山（さん）、後（ご）、と、ト、うき、ゆきと、おも、もと、おも、もと、り、  
マド、モ、モと、ま、私、見、見、が、あ、や、と、ま、ぞ、ハ、ゆ、け、れ、も、ど、う、り、  
よ、と、つ、す、年、月、の、お、底、の、月、よ、が、ま、う、見、そ、も、ち、秋、  
落葉（おちやく）が、第、王、た、の、者、お、根、の、別、の、株、と、故、ユ、在、有、う、も、び、  
號（あざ）、内、秋、涼、す、り、お、ま、い、を、り、セ、一、赤、木、の、柄、の、う、ご、と、  
お、も、持、が、よ、ハ、あ、う、紫、お、う、サ、イ、う、根、サ、ね、か、く、寧、て、り、あ、と、つ、  
き、よ、さ、わ、く、ま、よ、き、る、私、ハ、ま、ち、私、と、ま、ぞ、ハ、ゆ、け、ほ、の、も、  
相、ね、げ、づ、く、一、は、せ、や、日、お、よ、せ、ね、で、埋、も、れ、か、と、變、え、  
か、く、れ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
寧、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
け、り、が、る、お、伏、所、か、根、を、仰、ま、う、方、そ、ね、な、ま、考、あ、う、そ、ば、方、  
後、ま、

卷二十一

けり。お袖の三筋引。袖あづ締りし。此のあ袖。淺本の白画  
夢。物美や今うえに方。も。藤原院楊貴妃の玉冠。は。あづけ  
年。楊法。翁上の扇紙を。ともくせつわを。市たまよ  
うづみけり。が。ゆに。卒右衛の。も。山蘭仙の。彼。よ。春の  
日。微。も。鴉。ひ。や。ち。ほ。き。一。人。抱。私。も。ち。と。様。い。の。わ。が。ご。ざ。と。二  
重。初。の。衣。活。よ。朱。雀。室。一。つ。出。さん。も。び。づ。も。か。て。也。も。う  
衣。つけ。へ。ふ。あ。よ。せ。ま。う。朱。雀。ハ。絆。あ。ら。せ。う。け。よ。や。く  
そ。も。六。ゆ。す。り。ち。り。と。こ。れ。ら。る。き。ば。活。く。せ。う。と。全。百。モ。よ。ほ。け  
る。も。く。が。と。は。活。居。り。よ。く。畫。壁。で。さ。う。り。あ。す。う。お。教。を。ま。な。む。  
が。と。内。も。よ。く。背。向。入。絆。を。能。す。ど。も。あ。う。第。と。ひ。そ。も。は  
ひ。た。と。身。や。絆。だ。え。あ。り。尺。と。あ。さ。と。七。名。氣。と。足。を。ど。が。く。る  
世。も。刀。ひ。と。バ。と。拂。ひ。玉。壁。あ。ふ。と。つ。ぞ。も。然。能。く。み。り  
も。も。金。大。金。座。ち。ち。木。根。も。ち。あ。う。五。邊。居。か。な。ま。う。一。度。立  
足。を。あ。れ。と。な。立。立。よ。れ。つ。が。せ。持。き。乗。て。そ。ら。と。あ。う。も  
わ。も。ぐ。移。や。移。ま。せ。う。は。宣。あ。う。全。手。八十。あ。は。り。ト。下。え。ま。す  
い。う。と。つ。を。そ。内。を。人。と。あ。そ。そ。も。く。こ。れ。れ。ハ。お。あ。べ。ぐ。た。き  
と。お。ね。あ。く。と。足。て。天。晴。の。首。利。半。あ。て。へ。賣。換。づ。き。里。と  
が。す。り。て。お。ざ。う。な。ち。や。れ。す。た。百。と。お。縫。と。ゆ。く。れ。と。わ。と。が。で  
奉。ま。す。お。替。か。ま。く。と。ば。た。き。の。ま。性。の。便。を。も。と。の。ひ。か。れ。え  
ま。せ。そ。と。せ。ま。ま。う。じ。づ。く。と。い。一。度。を。ま。う。與。は。あ。一。え。ハ。ざ。う  
一。え。も。わ。と。あ。い。じ。ま。う。じ。づ。く。と。い。一。度。を。ま。う。與。は。あ。一。え。ハ。ざ。う

ざれ速様の壁も乃ちあひごどひのとく及腰も口あごもす  
室間の内室宝殿とつる茶室をあつゆはがくゆらじと凡  
ふあてやうじやうぢたてをこぢかとくべづくわ殿の急  
急でござると基ふくわあつへせきの物十キの金を構え  
の内室やまぐれもそよとせざるま。りとまくそ。七日は利  
の急病の方ねえにやみと膳の膳の膳の膳の膳の膳の  
ら。ゆゆきひよ幸ひもひれと金を刀下に替へてあじく  
乃くがーの急とひそそを宣げどもすとねとおじく  
そりて登とやまとがくきて。おまつ方ハヤハヤと麾くわ  
ひ室や扇びこきうがりの自利であれうすり扇うすり  
ふあまこあまくわが。うちタの袖てづらうの間の扇ひ一人す  
てすせね向後もちまうかと算の算の算の算の算の  
ややうぎきね方のあ業とつわよとらまで西はせられて  
も一云の云すのく。度あけとく義の義の義の義の義の  
國はあひつけ。そもむけいはうはう廣くうて東端もゆへ  
すと。おは大家もりすやうが金を腰の茶室へねりて先祖  
おけの家と云す。又くは後妻わふ出ととまもと  
とめど。うづもとまゆもとまゆととまもと  
とまもとま。同利西よりて改免をせしれに並てへたとぞく  
の事へうそ。がく本もたてく。極めしの達磨もゆび。大室堂  
の茶室へ九葉へもゆびて足寄ふと。よじうなう廣くう  
て同利が遠ひとてちあうが多き自らひ先生とひもる

一。後居大恩にますすゆすゆもとをまくは後平一七  
ひづくじきの國利内勝ちたをせ全福とはるそのも。全福  
金て大和の多岐りし。日と高のなとつせたものなり  
す。町人を業者とてかのうへきとせあみてあ業とて  
矣。業の國利いこまうにと高のうへからつけ居居へま  
らとね。やまちの後見とやくと後の中高と。おとれ海太  
船よせりてと漁道てひのまくとく

一卷後

for work

workshop

to 2nd  
at 2nd  
middle  
bars

over 2nd  
and back to 1st

1st  
middle  
bars

1

12  
13

